










基本的なコール処理





この項では、コールの発信、応答、および転送など、基本的なコール処理のタスクについて説明します。これらのタスクの実行に使用する機能は標準的なもので、ほとんどの電話機で利用できます。




コールの発信

コールを発信するには、ハンドセットを取り上げてダイヤルします。または、次の表に示すオプションのいずれかを使用します。


目的	必要な操作または状態の説明
オンフックでダイヤルする(ダイヤルトーンなし)	電話番号を入力し、次のいずれかの操作を行ってオフフックにします。 <ul style="list-style-type: none">• ハンドセットを取り上げます。•  または  を押します。• [ダイヤル] を押します。•  (回線ボタン) を押します。
スピーカフォンを使用してダイヤルする	[ハッシン] を押し、電話番号を入力します。ダイヤル、リダイヤル、または短縮ダイヤルの操作を行う前または後に  を押してもかまいません。 ハンドセットが受け台に置かれていて、  が点灯していないときに電話番号をダイヤルすると、通常はスピーカフォンモードが自動的に有効になります。これは、 [リダイヤル] または短縮ダイヤル ボタンを押した場合も同様です。
最後にダイヤルした電話番号にリダイヤルする	[リダイヤル] を押します。デフォルトでは、プライマリ回線がリダイヤルに使用されます。ただし、セカンダリ回線を開いてから [リダイヤル] を押してもかまいません。回線を開くには、  を押します。

目的	必要な操作または状態の説明
短縮ダイヤルを使用する	<p>次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オフフックにする前または後に  (短縮ダイヤル ボタン) を押します。 • オンフックの状態では短縮ダイヤルのインデックス番号 (キーパッドの 1 ~ 99) を入力し、[タンシュク] を押します。 <p>詳細については、P.47 の「短縮ダイヤル機能の設定」を参照してください。</p>
別のコールがアクティブなときにコールを発信する (新しい回線を使用)	<p>新しい回線で  を押します。この操作により、最初のコールが自動的に保留状態になります。</p>
別のコールがアクティブなときにコールを発信する (同じ回線を使用)	<p>[ホリユウ] を押してから [ハッシン] を押し、次にダイヤル、リダイヤル、または短縮ダイヤルのいずれかを行います。あるいは、アクティブなコールで会話を続け、その間に履歴または社内ディレクトリからダイヤルするよう準備します。詳細については、この表の次の 2 行を参照してください。</p>
履歴からダイヤルする	<p> > [フザイリレキ]、[チャクシンリレキ]、または [ハッシンリレキ] を選択し、次に番号までスクロールしてオフフックにします。プレフィックス番号やその他の番号を追加するには、[ヘンシュウ] を押します。</p> <p>コールがアクティブなときに履歴からダイヤルする場合は、番号までスクロールして [ダイヤル] を押します。元のコールの処理に対応するソフトキーを、次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ホリユウ] : 最初のコールを保留にし、2 番目のコールをダイヤルします。 • [シュウリョウ] : 最初のコールを切断し、2 番目のコールをダイヤルします。 • [テンソウ] : 最初の通話相手を 2 番目の通話相手に転送します ([テンソウ] を 2 回押します)。 • [カイギ] : すべての通話相手との間で会議コールを作成します ([カイギ] を 2 回押します)。

目的	必要な操作または状態の説明
電話機の社内ディレクトリからダイヤルする	<p> > [シャナイディレクトリ] を選択します (名前は異なる場合があります)。キーパッドを使用して文字を入力し、[ケンサク] を押します。ダイヤルするには、リストをスクロールして選択し、オフフックにします。</p> <p>コールがアクティブなときに社内ディレクトリからダイヤルする場合は、リストをスクロールして選択し、[ダイヤル] を押します。元のコールの処理に対応するソフトキーを、次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ホリユウ] : 最初のコールを保留にし、2 番目のコールをダイヤルします。 • [シュウリョウ] : 最初のコールを切断し、2 番目のコールをダイヤルします。 • [テンソウ] : 最初の通話相手を 2 番目の通話相手に転送します ([テンソウ] を 2 回押します)。 • [カイギ] : すべての通話相手との間で会議コールを作成します ([カイギ] を 2 回押します)。
社内ディレクトリの Web ページからダイヤルする	<p>Cisco WebDialer の機能を使用します。Web ブラウザを起動して、社内ディレクトリのページへ移動します。ディレクトリの電話番号をクリックします。コールを発信するには [ダイヤル] をクリックします。コールを終了するには [コールの終了] をクリックします。詳細については、『Web の Cisco IP Phone のカスタマイズ』 (http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm) を参照してください。</p>
ヘッドセットを使用してダイヤルする	<p>次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> •  が点灯していない場合は、ダイヤル、リダイヤル、または短縮ダイヤルの操作を行う前または後に押します。 •  が点灯している場合は、[ハッシン]、[リダイヤル]、または  (回線ボタンまたは短縮ダイヤル ボタン) を押します。または、電話番号を入力して [ダイヤル] を押します。
話し中または呼び出し中の内線が対応可能になったときに通知を受信する	<p>電話番号にコールし、ビジー音または呼出音が聞こえているときに [オリカエシ] を押します。切断します。内線が対応可能になると、電話機にメッセージが表示され、呼出音が鳴ります。この電話番号へのコールバックは自動的に行われません。コールを発信する必要があります。コールバックは特別な機能なので、システム管理者に設定を依頼します。通話相手がコール転送機能を有効にしている場合、コールバックは失敗します。</p>







目的	必要な操作または状態の説明
プライオリティ (Precedence) コールをかける	電話番号の前に、システム管理者から提供された MLPP アクセス番号を入力します。詳細については、P.41 の「重要なコールの優先順位付け」を参照してください。
Personal Address Book (PAB; 個人アドレス帳) のエントリまたはファーストダイヤルコードからダイヤルする	 >PAB service または Fast Dial service を選択します (名前は異なる場合があります)。リストからダイヤルするには、番号をスクロールして選択し、オフフックにします。PAB またはファーストダイヤルサービスへの登録については、P.52 の「ユーザ オプション Web ページへのアクセス」を参照してください。
課金コードまたはトラッキングコードを使用してコールを発信する	番号をダイヤルし、固定呼出音が鳴ったら、ユーザ固有のコードであるクライアント マターコード (CMC) または認証に必要な Forced Authorization Code (FAC) コードを入力します。クライアント マターコードまたは認証に必要な FAC コードを入力する必要があるかどうか、またその他の詳細は、システム管理者によって指示されます。
Cisco エクステンション モビリティ プロファイル を使用してコールを発信する	<p>使用する予定の電話機で Extension Mobility (EM; エクステンション モビリティ) にログインしていることを確認します。 >EM Service を選択します (名前は異なる場合があります)。次に、キーパッドを使用してログイン情報を入力します。共有の作業スペースで 1 台の電話機を使用している場合は、EM にログインしてから所定の機能にアクセスするか、コールを完了する必要があります。</p> <p>EM は特別な機能なので、システム管理者に電話機や電話機ユーザへの割り当てを依頼します。『Web での Cisco IP Phone のカスタマイズ』 (http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm) を参照してください。</p>
ビデオ コールを発信する	<p>電話スクリーンに  のアイコンが表示されているかどうかを確認します。</p> <p>このアイコンが存在する場合、電話機ではビデオが使用可能で、Cisco VT Advantage をサポートしています。この機能を使用すると、Cisco IP Phone、コンピュータ、および外部のビデオ カメラを使用してビデオ コールを発信できます。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。また、『Cisco VT Advantage クイック スタート ガイド』および『Cisco VT Advantage ユーザ ガイド』 (http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm) を参照してください。</p>

ヒント

- 電話番号を間違えて入力した場合は、<< を押して数値を消去します。ダイヤル操作を中止するには、[キャンセル] を押します。
- 電話機をオンフックにしてダイヤルしている場合は、電話番号の先頭に * と # を使用できません。これらのキーを使用する必要がある場合は、電話機をオフフックにしてダイヤルします。
- ダイヤル トーンが聞こえない、またはコールを完了できない場合は、次の状況の 1 つ以上が当てはまります。必要に応じて、システム管理者に問い合わせて詳細情報を入手してください。
 - 電話機の  ボタンからエクステンション モビリティ サービスにログインする必要があります。
 - クライアント マターコードまたは認証に必要な FAC コードを入力してから番号をダイヤルする必要があります。
 - 電話機に時間制限が設定されていて、一日の特定の時間帯に一部の機能が使用できなくなっています。



コールへの応答

コールに応答するには、ハンドセットを取り上げてオフフックにします。次の表に詳細を示します。

目的	必要な操作または状態の説明
ヘッドセットで応答する	<p> が点灯していない場合は押します。</p> <p> がすでに点灯している場合は、[アウトウ] または  (着信コールがかかっている回線ボタン) を押します。</p>
スピーカフォンで応答する	<p>、[アウトウ]、または  (着信コールがかかっている回線ボタン) を押します。</p>
接続コールから切り替えて呼び出し中のコールに応答する	<p>[アウトウ] または  (着信コールがかかっている回線ボタン) を押します。新しいコールへの応答と、最初のコールの保留が自動的に行われます。詳細については、P.27の「コールの保留と復帰」を参照してください。</p>
コール ウェイティングを使用して応答する	<p>電話機のコール ウェイティング機能を設定するように、システム管理者に依頼します。</p> <p>この機能を有効にしておくと、電話中に新しいコールが着信したときに、コール ウェイティングを知らせるトーンを鳴らし、発信者 ID 情報を表示します。コールに応答するには、[アウトウ] を押します。元のコールに戻るには、このコールを保留にする必要があります。P.27の「コールの保留と復帰」を参照してください。</p>
呼出音が 1 ～ 2 回鳴った後で着信コールに自動的に接続する	<p>自動応答機能の設定をシステム管理者に依頼します。詳細については、P.44の「ヘッドセットまたはスピーカフォン使用時の自動応答」を参照してください。</p>
別の電話機（会議室の電話機など）で保留状態になっているコールを取得するか、他の人に取得してもらう	<p>コールパークを使用します。P.34の「パークされているコールの保存と取得」を参照してください。</p>
自分の電話機を使用して別の電話機で鳴っているコールに応答する	<p>コールピックアップを使用します。P.36の「共有回線の使用」を参照してください。</p>
プライオリティ コールに応答する	<p>現在のコールを切断して [アウトウ] を押します。P.41の「重要なコールの優先順位付け」を参照してください。</p>
着信コールをボイス メッセージ システムに直接送信する	<p>[ソクテンソウ] を押します。コールがボイス メッセージ グルーピングに自動転送されます。</p>



コールの終了

コールを終了するには、切断します。次の表に詳細を示します。

目的	必要な操作または状態の説明
ハンドセットを使用しているときに切断する	ハンドセットを受け台に戻し、[シュウリョウ] を押します。
ヘッドセットを使用しているときに切断する	 を押します。ヘッドセットモードをアクティブにしておく場合は、[シュウリョウ] を押します。切断した後もボタンが点灯した状態になります。
スピーカフォンを使用しているときに切断する	 または [シュウリョウ] を押します。
複数のコールがある場合に1つのコールだけを切断する	[シュウリョウ] を押します。必要に応じて、コールの保留を解除しておきます。

コールの保留と復帰

アクティブとなり得るコールは常に 1 つに限定されるので、他のコールはすべて自動的に保留状態になります。



目的または状態	必要な操作または状態の説明
コールを保留状態にする	保留状態にするコールが強調表示されていることを確認し、[ホリユウ] を押します。
現在の回線にあるコールの保留を解除する	必要に応じて特定のコールまでスクロールし、[フッキ] を押します。
別の回線にあるコールの保留を解除する	保留中のコールがある回線で  を押します（その回線には、コールの保留を示すアイコン  が表示されています）。この回線で保留になっているコールが 1 つの場合、コールは自動的に復帰します。保留になっているコールが複数ある場合は、必要に応じて特定のコールまでスクロールし、[フッキ] を押します。

ヒント

コールが保留状態になっているとき、通常は音楽やビープ音が流れます。そのため、会議コールは保留にしないでください。

ミュートの使用

ミュートを使用すると、ハンドセット、ヘッドセット、スピーカフォン、または外部マイクロフォンの音声入力が無効になります。ミュートが有効な場合、コールの通信相手からの音声は聞こえますが、自分からの音声は通信相手に聞こえません。

目的	必要な操作または状態の説明
ミュートをオンにする	 を押します。
ミュートをオフにする	 を押します。

接続コールの転送

接続コールは転送によってリダイレクトされます。転送先は、コールの転送先となる電話番号です。

目的	必要な操作または状態の説明
転送先の相手と会話せずにコールを転送する	<p>[テンソウ] を押して、転送先の電話番号を入力します。コールの呼出音が聞こえたら、切断します。</p> <p>システム管理者がオンフック転送を有効にしていない場合は、[テンソウ] をもう一度押して転送を完了します。転送をキャンセルするには、[シュウリョウ] を押します。</p>
転送先の相手と会話してからコールを転送する（打診転送）	<p>[テンソウ] を押して、転送先の電話番号を入力します。相手が応答するのを待ちます。相手がコールの転送を承諾した場合は、[テンソウ] をもう一度押します。相手がコールの転送を拒否した場合は、[フッキ] を押して元のコールに戻ります。</p> <p>システム管理者がオンフック転送を有効にしていない場合は、[テンソウ] をもう一度押して転送を完了します。転送をキャンセルするには、[シュウリョウ] を押します。</p>
2つの現在のコールを相互に転送する（直接転送）	<p>その回線における任意のコールをスクロールして強調表示し、[センタク] を押します。2番目のコールに対しても同じ処理を行います。選択したコールの1つが強調表示されている状態で [D テンソウ] を押します（必要に応じて、[D テンソウ] を表示するために [ツギへ] を押します）。2つのコールが相互に接続され、自分のコールは終了されます。</p> <p>発信者との通信を継続する場合は、代わりに [サンカ] を使用して会議を作成します。詳細については、P.30の「会議コールの使用方法」を参照してください。</p>

ヒント


- オンフック転送が有効になっている場合は、切断するか、または [テンソウ] を押してから切断することができます。
- オンフック転送が電話機で有効になっていない場合は、[テンソウ] を押さずに切断すると、転送の動作がキャンセルされ、転送対象の通話相手が保留状態になることに注意してください。
- [テンソウ] を使用して保留中のコールをリダイレクトすることはできません。[テンソウ] を押して、転送前にコールの保留を解除してください。

別の電話番号へのコール転送

[フザイ] を使用すると、自分の Cisco IP Phone にかかってくる着信コールを別の電話番号にリダイレクトできます。



(注) [フザイ] の転送先番号は、自分の電話機からダイヤルする場合とまったく同じように入力します。たとえば、必要に応じて「9」などのアクセスコードや地域コードをダイヤルします。

目的	必要な操作または状態の説明
プライマリ回線のコール転送を設定する	[フザイ] を押し、転送先の電話番号を入力します。
プライマリ回線のコール転送をキャンセルする	[フザイ] を押します。
プライマリ回線のコール転送が有効になっているかどうかを確認する	プライマリ回線に  のアイコンが表示されていることを確認します。さらに、電話スクリーンの下部にあるステータス行を確認します。ここにはコール転送の転送先番号が表示されます。
任意の回線のコール転送を設定またはキャンセルする	ユーザ オプション Web ページにログインし、デバイスを選択して、メインメニューから [すべてのコールを別の番号に転送] を選択します。電話機の回線ごとにコール転送を設定またはキャンセルできます。ログインの手順については、P.53 の「ユーザ オプション Web ページへのログイン」を参照してください。 コール転送がプライマリ回線以外で有効になっている場合、電話機にはコール転送の状態が表示されません。その代わりとして、ユーザ オプション ページで設定を確認する必要があります。

ヒント

- 従来のアナログ電話機、または他の IP Phone にコールを転送することができます (ただし、システム管理者がコール転送機能を社内の番号に制限している場合があります)。
- この機能は回線ごとに設定する必要があります。コール転送が有効でない回線にコールがかかってきた場合、通常どおりコールの呼出音が鳴ります。

会議コールの使用法

Cisco IP Phone では、3 名以上を 1 台の電話機の会話に参加させ、会議コールを作成できます。

サポートされている会議コールのタイプ

会議コールには、標準の会議と Meet-Me 会議の 2 つのタイプがあります。

標準の会議コール

標準の会議コール（つまり Ad-Hoc 会議コール）では、会議の開催者が参加者にコールし、各参加者を会議に追加する必要があります。Cisco IP Phone では、必要性や電話機の設定に応じて、次のように複数の方法で標準の会議コールを作成できます。

- **[カイギ]**：このソフトキーは、参加者それぞれにコールをかけることによって、標準の会議を開催するときに使用します。標準の会議コールは、ほとんどの電話機で利用可能なデフォルトの機能です。
- **[サンカ]**：このソフトキーは、すでに同じ 1 本の回線にある複数のコールの間で、標準の会議コールを開催するときに使用します。
- **[C ワリコミ]**：このソフトキーは、共有回線の既存のコールに自分を追加し、そのコールを標準の会議コールに切り替えるときに使用します。これは共有回線だけで利用可能なオプション機能のため、システム管理者に設定を依頼する必要があります。詳細については、P.36 の「共有回線の使用」を参照してください。

手順の詳細については、P.31 の「標準の会議の開催と参加」を参照してください。

Meet-Me 会議コール

Meet-Me 会議では、会議の開催者からコールされるのを待つのではなく、参加者が会議番号を直接ダイヤルして会議に参加することができます。

Meet-Me 会議を開催するには、電話機で [ミートミー] ソフトキーを使用し、システム管理者から提供された Meet-Me 電話番号をダイヤルします。Meet-Me 会議に参加するには、指定された時間に Meet-Me 電話番号をダイヤルします。会議の開催者がダイヤルインする前に、会議の参加者が会議にコールした場合、その参加者にはビジー音が聞こえます。会議の開催者がダイヤルインすると、Meet-Me 会議が開催され、その後は会議の開催者が切断しても Meet-Me 会議は継続できます。Meet-Me 会議は特別な機能のため、システム管理者に設定を依頼します。

手順の詳細については、P.33 の「Meet-Me 会議コールの開催または参加」を参照してください。

標準の会議の開催と参加

標準の会議では、1つのコールに3名以上の人々が参加できます。次の表に詳細を示します。

目的	必要な操作または状態の説明
参加者にコールを発信して標準の会議コールを開催する	接続コール中に、別の発信者をコールに追加するには、 [カイギ] を押します（必要に応じて、 [カイギ] を表示するために [ツギへ] ソフトキーを押します）。会議の参加者の電話番号を入力します。コールが接続され、会議の参加者と会話した後、 [カイギ] をもう一度押して、この発信者をコールに追加します。この操作を繰り返して、参加者を1人ずつ追加します。
現在の発信者を標準の会議の参加者として追加する	1つの回線に2つ以上のコールがあるとき、その回線で任意のコールをスクロールして強調表示し、 [センタク] を押します。会議に追加するすべてのコールについて、それぞれ同じ処理を行います。選択したコールのいずれかで、 [サンカ] を押します（必要に応じて、 [サンカ] を表示するために [ツギへ] ソフトキーを押します）。アクティブなコールが選択され、自動的に会議に追加されます。
標準の会議に参加する	呼出音が鳴ったら電話機に応答します。標準の会議コールに参加する場合、特別な操作は何も必要ありません。
共有回線のコールに割り込み（自分を追加し）、そのコールを標準の会議コールに切り替える	共有回線でコール（リモートで使用中）を強調表示し、 [C ワリコミ] を押します（必要に応じて、 [C ワリコミ] を表示するために [ツギへ] ソフトキーを押します）。コールの他の参加者に対して、割り込みを知らせるビープ音が鳴ります。詳細については、P.36の「共有回線の使用」を参照してください。
会議の参加者のリストを表示する	アクティブな会議を強調表示し、 [サンカシャ] を押します。会議に参加した順序に従って、参加者がリストに表示されます。最後に追加された参加者がリストの先頭になります。
会議の参加者のリストを更新する	会議の参加者のリストを表示している状態で、 [コウシン] を押します。
会議の開催者を確認する	会議のリストを表示している状態で、リストの末尾までスクロールして、会議の開催者（名前の横にアスタリスク（*）の付いた人物）を検索します。
会議に最後に追加された参加者を削除する	会議の参加者のリストで、先頭にある参加者の名前を強調表示し、 [サクジョ] を押します（最後の参加者は常にリストの先頭に表示されます）。会議の参加者のリストを表示していない場合は、 [ドロップ] を押します。参加者を削除できるのは、会議コールの開催者だけです。

目的	必要な操作または状態の説明
会議の任意の参加者を削除する	参加者の名前を強調表示し、 [サクジョ] を押します。参加者を削除できるのは、会議コールの開催者だけです。
標準の会議への参加を終了する	<p>切断するか、または [シュウリョウ] を押します。会議コールの開催者でない場合、切断しても他の参加者の接続を中断することはありません。</p> <p>会議コールの開催者である場合は、切断すると会議が終了することがあります（システム管理者が電話機を設定した内容によって異なります）。会議が終了しないようにするには、会議を他の参加者に転送してから切断します。その後はその参加者が、会議の「仮想管理者」としての役割を果たすこととなります。仮想管理者は参加者の追加や削除はできません。会議は既存の参加者で続行します。</p>

ヒント

- 標準の会議コールに複数のコールを追加するには、それらのコールが同じ回線にある必要があります。コールがそれぞれ異なる回線にある場合は、それらのコールを1本の同じ回線に転送してから**[カイギ]** または **[サンカ]** を押します。
- [サンカ]** を使用しようとしたとき、「サンカシャジョウホウガアリマセン」というエラーメッセージが表示された場合は、アクティブなコールのほかに少なくとも1つのコールを選択していることを確認してください（アクティブなコールは自動的に選択されます）。
- 電話機の設定内容によっては、会議を開催した後でその会議を切断すると、会議が終了する場合があります。詳細については、上の表の最後にある行を参照してください。

Meet-Me 会議コールの開催または参加

Meet-Me 会議では、会議の開催者からコールされるのを待つのではなく、参加者が会議番号を直接ダイヤルして会議に参加することができます。次の表に詳細を示します。

目的	必要な操作または状態の説明
Meet-Me 会議を開催する	<p>[ハッシン] を押すか、またはハンドセットを取り上げてオフフックにします。[ミートミー] を押し、Meet-Me 会議番号をダイヤルします（有効な番号のリストについては、管理者に確認してください）。</p> <p>参加者がダイヤルインできるように、必ず会議番号を参加者に通知してください。ただし、会議の開催者がダイヤルインする前に、参加者が会議番号をコールした場合、その参加者にはビジー音が聞こえます。</p>
Meet-Me 会議に参加する	Meet-Me 会議番号をダイヤルします（この番号は会議の開催者から提供されます）。会議の開催者がダイヤルインした後でなければ、会議には接続されません。
Meet-Me 会議を終了する	切断するか、または [シュウリョウ] を押します。